

第1回市民意見交換会WS結果概要

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
目的・理念	理念と目的は別に記載。理念を明確にする必要がある。何がしたいのかを明示する。文章は短く、市民が見てわかるように。理念...地域課題に取り組む団体の活性化 目的...NPO等の活性化・自立した組織作りに向けたサポート	かゆいところに手が届く（アットホームな雰囲気づくり） 目的は協働であることを明確に	NPOやサークルのみを対象とするのではなく、一人一人の市民を掘り起こすための情報発信・情報交換・交流が重要。 潜在している市民の力を掘り起こし、地域活動へとつなげる。	公民館・社協など他の機能との差別化 西東京市ならではのセンター（市民の特性や地域特有の課題との関連） 市民と市民をつなぐ拠点であってもよい。
センターの基本的機能	【相談・情報提供】 地域活動の的確なサポート。ステップアップの助言。常に新鮮な情報を提供する。 【調査研究、啓発、政策提案】 地域の課題が速やかに解決できる。 【コーディネート・ネットワーク】 いろんな考えの人と出会え、自身が向上できる。 【場所・機材の提供】 パソコンは絶対必要。ホスト・ロッカはいらぬ。 その他...他の公共施設との違いは？	【調査研究、啓発、政策提案】 地域ニーズの代弁機能・課題の発信 【コーディネート・ネットワーク】 横断的な交流、ネットワークのため情報発信・情報のやり取りが必要。インターネットをうまく活用した情報発信 【場所・機材の提供】 パソコン（5～10台）を設置し、スキルのある職員を配置。 会議室の確保	【相談・情報提供】 情報のキーステーションとし、人と情報の交流によって市民活動の活性化につなげる。 【人材養成・研修】 潜在する団塊世代の力を顕在化するための地域デビュー支援（人材登録等） 活動のきっかけとなる講座や活動支援のための実践的なセミナー 【調査研究、啓発、政策提案】 地域ニーズの把握（調査や団体の声） サークル等と含めた情報発信・交流による「協働」を普及 【コーディネート・ネットワーク】 ポラセン・公民館・社協との連携・コーディネート	【調査研究、啓発、政策提案】 広報的役割 【コーディネート・ネットワーク】 市民・行政・企業の多様な組み合わせによる協働を支援 横のつながりづくり 市民（個人含め）と行政をつなぐ役割 ボランティアがつながりたい時にコーディネート機能を発揮 その他...団体の評価（利用する際の）
市民活動を支え、ともに推進するための運営にむけて	【運営主体の条件】 「公募」を明記する。早めに周知する必要あり。 【評価方法】 サービスの受け手による評価が必要。活動情報公開や意見聴取し、透明性を確保することが必要。 2～3年で評価を行う。必要性や優先順位で決める。	【運営体制】 対人スキルを持った職員。常駐職員が必要。運営会議組織の工夫。分野別など。 【評価方法】 事業検証・評価のための評価基準の明確化 行政・自己・第三者による評価	【運営体制】 主体に属するスタッフのみではなく、多様な人が参加し、厚い体制を整える。 【運営主体の条件】 競争原理の確保 【評価方法】 運営者も育てるという視点（将来性に期待） 透明性を確保し、市民参加による第三者機関によるセンター機能のチェック 中長期計画策定による進行管理	
今後の課題	内容は必要により変化する。作り上げていくことが必要。将来的には、センター・ポラセン・公民館などが一緒にいるとよいのでは。	将来的には、このセンターを中心としたサテライト方式（分室）による機能拡大。 ボランティア団体・個人との接点の構築	「敷居の低い」人材登録制度により、参加したい人が地域に貢献できるしくみづくり。 行政との継続的な協議会の開催 協働事業の窓口の明確化	センターの継続性 ずっと"公設"でよいのか？ 一定時限での場所の見直しの必要性 職員と話す場
その他	予算枠を明確にしてから討議する必要がある。できないなら言っても仕方なく、空しい。センターの文章はどこでも同様である。これでは意見が出しにくい。 新しいまちができる期待でワクワクしている。	気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを工夫し、アットホームな運営が必要だが、いやすいだけの単なるサロンで終わらないように目的を明確に。 一般的にはセンターのイメージがわきづらい。どう広く発信するかが重要。	行政からの独立 自主財源を確保できるしくみ。有料講座など、自主財源確保のための活動を認める。	名称（幅広い協働、多様な組み合わせの協働としての名称） 入りやすい雰囲気、利用によりイングビル自体の活性化にもつながる。 グッズでも講座でもよいが、自主財源を確保するしくみが必要
備考				